



令和8年3月9日

立川市議会

議長 福島正美 殿

立川市議会文教委員会

委員長 瀬 順 弘

## 行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 視察月日

令和7年11月6日（木）から7日（金）

#### 2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
石川県金沢市	金沢文化スポーツコミッションについて
石川県加賀市	学校教育ビジョン“Be the Player”について

#### 3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

# 文教委員会視察報告書

【日時】 令和7年11月6日(木)

【視察先】 金沢市役所(石川県金沢市広坂 1-1-1)

【視察者】 瀬順弘(委員長)・永元香子(副委員長)・中山ひとみ  
・門倉正子・高島奈美・原ゆき

【視察目的】 金沢文化スポーツコミッションの取組「スポーツと地域活性化」について

## 【事業の目的】

金沢文化スポーツコミッションは、金沢の文化とスポーツによる地域コミュニティ・地域経済の活性化、文化とスポーツの活用・振興、そして金沢ブランドの醸成・発信を目的として 2018.7.1 に発足しました。”する人、観る人、支える人”を一元的に応援する、日本ユニークな組織を目指しています。

スポーツツーリズム(大会誘致・合宿誘致)を推進して交流人口の拡大を目指す、金沢市観光協会の別建て組織として 2018 年 7 月設立し、平八郎代表含む 6 人体制で活動。

## 【事業内容】

- ・全国初の誘致制度:地元団体の誘致活動を後押しする金沢市のユニークな支援制度を活用し、地元団体と連携し全国大会、国際大会の誘致に取り組む。
- ・個人や団体をマッチング:競技団体の普及活動をバックアップし、SNS を活用した広報・発信により地域コミュニティとの交流をサポート。
- ・金沢ならではの開催:「文化×スポーツ」のコラボ(=文武両道活動)等、金沢らしいしつらえや金沢ならではのもてなしで、金沢BRANDを醸成・発信。

## 【事業予算】

2025 年度当初予算 89,511 千円(スポーツコミッションのみ)

## 《事例》

令和7年3月16日 金沢ゴーゴーカレースタジアム  
「能登復興祈念試合ラグビー・ALL 早稲田大学 vsALL 慶應義塾大学」で、加賀豊年太鼓、オープニングチアリーディング、ハーフタイムキッズダンス、被災地からのエスコートキッズ、両校へのラグビーボール、革製記念キーホルダー等

令和7年10月4、5日金沢城北市民運動公園駐車場「RunBike Revolution2025—天下無双—」で水引の優勝冠、水引アクセサリー制作体験、加賀獅子舞の演技披露

令和6年度、令和5年度

- ・各種のスポーツ大会で、カポエイラ×津軽三味線、なでしこバレーボール×和太鼓、金感ラグビー×金沢芸姑、ソフトバレー×弦楽五重奏  
親睦テニス×起上り絵付け+横笛、ポッチャ×加賀鳶梯子登り
- ・各種学生合宿で、高校茶道部×蒔絵体験・加賀縫い体験、水泳チーム×起上り絵付け体験、大学ゼミ合宿×金箔貼り体験、他

#### 【石川県金沢市】

金沢市は県庁所在地でもあり石川県最大の都市で、人口約 45 万人・面積約 469 km<sup>2</sup>の規模を持つ中核市です。人口:2025 年 11 月 1 日時点で 454,324 人。面積:468.81 km<sup>2</sup>。人口密度:約 969 人/km<sup>2</sup>。世帯数:2025 年 9 月時点で 14,356 世帯。

#### 【人口動態と特徴】

少子高齢化:2020 年時点で 65 歳以上が 27.0%を占める。世帯規模:1 世帯あたり平均 2.16 人(2020 年縮小傾向。単独世帯:2020 年には全世帯 41.2%が単独世帯。

#### 【金沢市の財政概要】

令和 7 年度一般会計当初予算:2,049 億円(前年度比 +7.6%)。過去最大規模で、子育て施策や安全・活力ある都市づくりに重点をおく。

- ・ 歳入規模(令和5年度決算ベース):約 2,101 億円。
- ・ 歳出規模(令和5年度決算ベース):約 2,024 億円。

#### 【財政指標】

地方税収入:約 849 億円(令和5年度)・財政力指数:0.86(全国 815 市区中 107 位)・自主財源の割合が比較的高く、財政基盤は安定的・実質公債費比率:4.0%(全国平均より低め)・将来負担比率:20.2%・地方交付税依存度:7.0%と低く、交付税に頼らない都市財政。

#### 【質疑&回答】

- ① 職員の組織・人員体制と具体的な職務内容について教えていただけますでしょうか。  
回答⇒代表・副代表(民間登用)・総括マネージャー(市 OB)・出向者二名(市職員)・庶務。大会・合宿誘致活動・コラボ・事業管理・予算管理
- ② スポーツと文化や地域産業をコラボレーションするためには、専門的知見を有した人材の配置が必要ではないかと考えますがいかがでしょうか。  
回答⇒スポーツや文化に関する専門知識は不要ですが、コミュニケーション能力や実行力は必要です。また、金沢のことをよく知っていることが大切。
- ③ 弓道×茶道、金沢城で朝ヨガ等、アイデア・企画はどのようなメンバーで考えているのか。  
回答⇒すべてコミッション内で企画。大会毎にカスタマイズする。参加者が「笑顔」になることを重要視している。
- ④ それぞれのイベントの参加者はどの人数になっているか。  
回答⇒主なものとして、2024年度参加者数 48大会 18,807 名最小大会 69 名、最大大会 1,667 名
- ⑤ イベント頻度はどれくらいで行っているか(年何回ぐらいイベントを開催しているか)  
回答⇒2024 年度大会 48 件 合宿 3141 件  
2023 年度大会 44 件 合宿 259 件

2022年度大会 53件 合宿 132件

【所感】

金沢市では大会やスポーツイベントの誘致に対し奨励金や補助金制度があり、地域外から競技者・観客が来る仕組みをつくっています。金沢文化スポーツコミッションは、文化及びスポーツを核としながら、観光、産業、都市ブランドの形成を目的とした横断的な事業であり、単一部局による所管ではなく、分野の横断的な調整体制のもとで運営されているため、立川市でもこの制度をつくれば、交流人口の増加、観客や関係者の立川市滞在で経済効果(宿泊・飲食・交通等)が見込める。また、市内団体、地元企業の連携、市民の参加や協力によって地域コミュニティや地域力等、あらゆる分野の向上や活性化につながると思いました。

## 文教委員会視察

日時：2025年11月7日（金）13時30分～15時00分

場所：加賀市役所 別館3階 302・303会議室

タイトル：加賀市教育ビジョン「Be the player」について

担当：教育委員会事務局次長兼学校指導課長

北市 康徳（きたいち やすのり）課長

参加議員・瀬 順弘（委員長） ・永元 香子（副委員長） ・中山 ひとみ ・門倉 正子 ・高島 奈美 ・原 ゆき
--

石川県加賀市：人口58,707人 面積:305.87km<sup>2</sup>

小学校：16校 中学校5校 義務教育学校：1校→全22校

特徴：人口に比べて学校数が多い。人口減少が著しい状況。

→2023年 学校教育ビジョンスタート。

### 【加賀市学校教育ビジョンの特徴】

#### 01. 学びを変える～授業を変える～

1人ひとりに合う学びを届けるため、教師指導の画一的な一斉授業から脱却し、「子どもが主役」の授業へと市内全小中学校で学びの改革を進める。学びのスタイル→子どもが主役の授業。

1人1台のパソコンをフル活用して、「自分のペースで自ら学ぶ」

#### 02：誰一人取り残さない～不登校支援

・Being→教育総合支援センターを旧三木小学校に移転し、地域の人々と一緒に学校になじめない子の居場所を作る。また不登校支援の拠点として機能強化し、校舎を全面リニューアル。

・SSR→学校内サポートルームの設置→2025年から全校設置。

「教室に行くのがしんどい」→そう思った時に、教室以外で過ごせる場所を学校内に設置。早期支援につなげる。1日33人利用。

チャット相談、児童センター（市内6か所）も居場所として活用、等。相談件数1300件  
不登校200名。

### 03：未来は自分で創る - STEAM

- ・小中一貫型加賀 STEAM 教育プログラムの実施

加賀市の強みであるプログラミングを生かして、小中9年間一貫型の STEAM 教育プログラムに刷新。2014 年ロボレール開発。(プログラミングしてロボットを動かす。)

### 04：地域と一緒に

- ・全小中学校コミュニティスクール設置→学校運営協議会を作り保護者と学校と地域が共に知恵を出し合い、学校運営を行う。

- ・中学校部活動の地域移行（国の補助金 100%活用）

2023～2025 年度を「改革推進期間」と位置づけ、国の方針のもと、地域と一緒に子どもの活動の場を作る。野球部 3 か所、ハンドボール部、吹奏楽部 指導者→謝礼 1 時間 1800 円。

- ・学校・保護者間の連絡手段のデジタル化→アプリ購入。

- ・保護者・市民向けの教育講演会・広報

所感：石川県加賀市は石川県の最南端、金沢市と福井県の間位置し、観光資源が豊富な市である。しかし少子化の波が押し寄せ、人数が少ないため統廃合を中止した経緯がある。1 校に対して生徒が 4 人しかいない所もあるそうだ。現在子ども達の数は 4 千人。子どもの数に対して学校の数が多い。加賀市自体の人口は少なく、若手が 1 度県外に出ると戻ってこないで常に人材不足に悩む状態にある。特徴的なのはSTEAM教育で、これまでの市のプログラミング教育をリニューアルし、小6と中2でテクノロジー開発等の長期の探求型プロジェクトに取り組んでいることが印象的であった。

